

ファン・ゴッホは浮世絵からなにを学んだか

元横浜国立大学教授 木下 長宏

日本の浮世絵がファン・ゴッホに与えた影響という問題は、

- 1) その絵画の表現技法に、大胆で平面的な色遣い、遠近法を超えた構図、力強い線による輪郭、などを実現した、
- 2) 文学書などから学んだ「日本」を、彼独自の理想郷に仕立て、とくに、日本の僧院に芸術家の集まりの理想的モデルをみつけ、アルルでそれを実現しようとした、

といったことが、定説となっている。

それを踏まえて、もう少し、ファン・ゴッホが、浮世絵からなにを学び、彼の仕事（絵画）と生きかたに活かしているか、を考えてみたい。

①まず、模写から学んだこと——ファン・ゴッホは、版画（木版、エッチング etc.）を、油彩や素描によって模写（広重、栄泉、のほか、ミレー、レンブラント、ドラクロワなど）し、いろいろなことを学んだ。とくに、浮世絵から学んだことの意味について——

- a. 印刷された絵を肉筆（油彩）化したことの意味。
- b. 別摺りの浮世絵をみて学んだ色彩のありかたの問題

②つぎに、北斎から学んだこと——模写はしなかったが、彼の制作思想の深化のために、浮世絵から学んだことについて——

- a. 北斎から学んだこと。生きかたと結びついた絵画の追究。
- b. 北斎の絵に示唆されてファン・ゴッホが創り出した、「炎の人」のイメージとは異質なファン・ゴッホの絵画の系譜＜草の絵の系譜＞に注目する。